▼上西エリカ《Growing Memories》

日本の古い地図から想を得たジグソーパズルを壁面に設置。鑑賞者がパズルの一片に言葉や絵を書き、埋めていくことで、作品の一部に参加する

第5回大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012
積み重ね、育んできた里山のアートの恵み

三年に一度開催される「大地の芸術祭」は、二〇〇〇年に始まり、今年、五回目の開催を迎えました。日本から、世界から、人々の情熱を集め、様々な芸術やかなしみも乗り越えて、開催ごとに豊かな実りを結んできました。今年新たに加わった作品、プロジェクトを中心に、越後妻有の里山に繰り広げられているアートの饗宴をご紹介します。 文・田村美彩

イタル・アート美術館
集めた不要品に手を加えて再生。会期中も増殖して次々と作品は増え続け

ルトラックセット
KUCTURES.FIG.429
アクリル板、照明など

越後妻有里山現代美術館［キナーレ］

▼（土壌モノリス）が組み込まれた、越後妻有里山現代美術館看板サイン（モノリス）

▼ゼルダ・シュタイナー＆ヨルク・レンツリンガー（コースト・サテライト）
ヨーロッパ各地で作られた廃材、生活用品、家具などに加えて、世界中で集められた様々なものを組み合わせて空間に充てている。作品の一部として設置された家具に座って眺る、横で寝ころがる、など様々に楽しむことができる

▼クリスチャン・ボルタンスキー（No Man's Land）
箱、クレーン、心臓音、スピーカー

▼カルロス・ガライコア（浮遊）

▼開会式後の出品者記念撮影